

## 長久手市行政評価票（A票：事業評価票）

事業番号	044 -	事業名	社会教育事務事業			担当部課	くらし文化部生涯学習課		
基本情報	第5次総合計画・基本方針	✓ 文化をみがき、人が輝くまち	会計区分	一般会計					
	まちづくり行程表・フラッグ	—		予算区分(款 - 項 - 目)					
	第6次総合計画・基本目標	—	9-4-1 社会教育総務費						
	法定受託事務の有無	—							
	その他(関係計画、要綱等)	✓	社会教育法第5条第1. 2. 12. 16号、44条、長久手市立小学校及び中学校施設使用料条例						
	事業開始の背景、経緯等	市民の文化活動を行う場を増やし、学習等に関する情報の収集・整理及び提供を行う事によって生涯学習への参加を促すため。							
事業目的等	事業内容	(どのような事業なのか) 生涯学習課生涯学習係が分担する事務の総務 ・社会教育に必要な援助を行う。 ・社会教育委員の委嘱を行う。 ・文化芸術の発表会等の開催及びその奨励を行う。 ・社会教育に関する情報の収集、整理及び提供をする。 ・文化芸術の学習の場の提供として市内の小中学校の開放をする。							
	事業対象	(誰、何を対象にしているか) 市民							
	事業意図	(対象をどのような状態にしたいか) 市民が自主的に生涯学習を行えるようにする。							
	事業を構成する事務事業(B票)	① 社会教育事務事業	改善・見直し	④					
	②			⑤					
	③			⑥					
コスト推移	項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)	
	事業費(A)	千円	予算	3,549	3,322	3,236	3,323	2,836	
			決算	2,759	2,660	2,965	4,234		
	人件費(B)	千円	決算	2,700	2,902	4,543	3,970		
総コスト(A)+(B)	千円	決算	5,459	5,562	7,508	8,204			
成果推移	成果指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)	
	A 学校開放事業利用人数	人	目標	20	20	20	20	20	
			実績	6	15	16	13		
	B 生涯学習情報誌の発行部数	部	目標			5,000	5,000	5,000	
			実績			5,000	5,000		
	C		目標						
実績									
【指標の説明】(指標の設定根拠、数値目標の設定根拠など) A 学校開放事業利用人数20人を目指す。 ※土曜日の北中学校及び北小学校の多目的室の利用人数 B 生涯学習情報誌を発行した部数 C									
環境変化	他市町での取組状況や事業を取り巻く環境変化	(他市町における同様の取組での特徴的な点、制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) みよし市年に4回各150部、尾張旭市年に1回400部、瀬戸市年に2回各1,500部、日進市年に3回各全戸配布、東郷町年に4回各全戸配布で生涯学習に関する情報の収集、整理のため情報誌を作成している。							
	目標達成状況	(成果指標等の目標に対する達成状況や進捗状況など) ・学校開放事業は年間13人の利用であった。(文化芸術事業のみ) ・情報誌は、前期後期で、各約1,000部を退職後世代にDMで配布した。各約1,500部を生涯学習課や公共施設で配布した。							
評価	過去5年間の振り返り	(過去5年間の事業の進捗状況、改善状況などの振り返り) 学校開放に関しては、広報によりPRしているが利用が少ない現状であった。 生涯学習情報誌では、H29年度から情報誌に関するアンケートを実施し、市民の声を反映した紙面づくりに取り組んでいる。							
	事務事業全体を見た課題	(構成している事務事業それぞれの評価を踏まえ、全体的な課題を整理) 情報誌の内容充実と学校開放事業の周知の徹底							
今後	今後の方向性	(事業の成果を高めるための事務事業の方向性) 生涯学習を通して他者と交流することができるように、生涯学習を身近に感じる情報提供の充実や学びの場・発表の場の提供を行う。							
	中長期の目標	(いっところまでに事業をどのような状態にしたいか) ・情報誌にはがきを添付し、アンケートをもとにニーズにあった情報掲載ができるように改善していく。 ・広報等に学校開放事業についてを掲載し、生涯学習の場として使用できることを周知する。							

内部意見	総合計画担当、財政担当、行政改革担当による意見	
------	-------------------------	--

# 長久手市行政評価票（B票：事務事業評価票）

事業(A票)名	社会教育事務事業		担当部課	くらし文化部生涯学習課	決算書ページ	—
事務事業名	①	社会教育事務事業	予算区分	9-4-1 社会教育総務費		
事務事業の期間	事務事業開始年度	学校開放H22年度(2010年度)情報誌 H16年度(2003年度)	終了(予定)年度	—		

## 1. 事務事業の目的

対象・手段	(誰、何に対し、何をどのように実施しているのか) 市民、市内講座・ボランティアに参加したい方に各種講座や社会教育関係団体を紹介し、学習情報の充実に努める。 また、学習の場の提供として、土曜日の長久手市立北小学校及び北中学校の施設を学校教育に支障のない範囲で、市民の文化活動等のために開放する。
意図	(対象をどのような状態にしたいか) 冊子を手に取り、学校や公共施設を利用した市内講座・ボランティア・サークルに参加し、積極的に生涯学習に取り組む。(特に定年退職後世代)

## 2. コスト推移

項目	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
事業費	千円	予算	3,549	3,322	3,236	3,323	2,836
		決算	2,759	2,660	2,965	4,234	
<備考：事業費の主な内訳(30年度(2018))>							
(1) 社会教育事務嘱託員						1,267 千円	
(2) 社会教育事務賃金						1,242 千円	
(3) 印刷製本費						609 千円	

## 3. 活動推移

活動指標	単位	区分	27年度(2015)	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
掲載された講座数・団体数	講座 団体	見込			200	200	240
		実績			227	230	
		見込 実績					
<備考：活動の概要(30年度(2018))>							
生涯学習情報誌作成 2,500冊×2回(前期・後期) 目標：前期・後期でそれぞれ100(講座・団体)ずつ 実績：前期 125(講座・団体)、後期 110(講座・団体)							

## 4. 事務事業を取り巻く環境変化

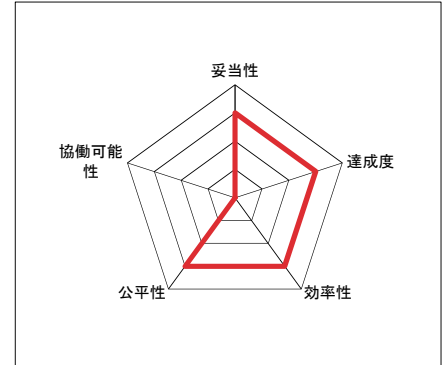
(制度の変更、ニーズの変化、技術の変化など) 学校開放については、北小学校の図書館開放事業を終了したため、多目的室の利用人数のみとなり、利用人数が少なくなっている。
---

## 5. 前年度からの改善状況

(1) 財政状況
(前年度【予算額】) (今年度【予算額】) (増減額)
3,323 千円 2,836 千円 △ 487 千円
(2) 前年度の評価状況《参考》
・前年度【今後の方向性】 改善・見直し
・前年度【コメント】
各課や市内大学等に呼びかけ、生涯学習情報誌の掲載講座数及び団体数を増加させ、見やすいレイアウトを検討していく。
(3) 改善状況
(何をどのような状態に改善したのか)
生涯学習情報誌にアンケートハガキを添付し、市民から意見聴取し、紙面の構成に反映する。

## 6. 評価

項目	評価
妥当性	3
達成度	3
効率性	3
公平性	3
協働可能性	—



### 【協働可能性について】

(1) 市民参加の延べ人数(人)				
区分	28年度(2016)	29年度(2017)	30年度(2018)	元年度(2019)
見込	—	—	—	—
実績	—	—	—	—
(2) 協働の状況(30年度(2018))				
(協働で取り組んだこと、評価できない理由など)				
市民協働する事業でないため、評価できない。				

### 【活動エピソード】

(活動のエピソード、コメント、特記事項など)
生涯学習情報誌にアンケートハガキを添付し、市民から意見聴取する。

### 【改善ポイント】

(改善が必要なこと、改善の方法など)
庁舎内の情報だけでなく、市内大学等からの講座情報の提供を呼びかける。

## 7. 今後の方向性

**改善・見直し**